

# 5月のランチカレンダー (予定)



らい  
カフェ来★ぶら～り 2025

月	火	水	木	金	土	日
トースト・ピザトースト(毎回あります) クッキー(毎回あります) シフォンケーキ(木曜・土曜にあります) ※月曜・水曜も各種手作りお菓子あります			1 道産小麦の 焼うどん	2	3(祝) 休業日	4
5(祝) 休業日	6(祝)	7 休館日	8 おにぎり ランチ	9	10 ピザトースト トースト スープ	11
12 炊き込みご飯 ランチ	13	14 ピザトースト トースト スープ	15 +勝まるごとピザ スープ	16	17 ピザトースト トースト スープ	18
19 ちらし寿司 ランチ	20	21 ピザトースト トースト スープ	22 道産小麦の 焼うどん	23	24 手作りパン スープ	25
26 手作りカレー	27	28 ピザトースト トースト スープ	29 +勝まるごとピザ スープ	30 休館日	31 ピザトースト トースト スープ	

営業日 月・水・木・土  
営業時間 11:00～16:00

★印のメニューは、数量限定！  
カウンターやお電話でご予約もお受けします

## ＜日替りランチメニュー＞

- ★おにぎりランチ(おみそ汁付)・・・600円
  - ★ちらし寿司ランチ・・・・・・・・・・600円
  - ★炊き込みご飯ランチ・・・・・・・・・・600円
  - ★道産小麦の焼うどん(小鉢付)・・・600円
  - ★手作りカレー(ピクルス付)・・・600円
- (★印の食後のコーヒーは150円です)

## ＜飲みものメニュー＞

- オリジナルブレンドコーヒー・・・・250円
- アイスコーヒー・・・・・・・・・・300円
- 果汁100%ジュース・・・・・・・・各150円  
(アップル・オレンジ・グレープ)
- カルピス・・・・・・・・・・150円
- ごぼう茶・・・・・・・・・・150円

## ＜軽食メニュー＞

- ピザトースト・・・・・・・・・・350円
- トースト(バター・ジャム付)・・・250円
- クッキー、シフォンケーキ・・・各130円
- 手作りお菓子・・・・・・・・・・150円
- +勝まるごとピザ(月2回)・・・・450円
- 手作りパン(月1回)・・・・1個/130円
- スープ(月数回)・・・・・・・・1杯/150円

らい  
来★ぶら～り TEL 090-1521-5205

(お会計はご注文の際にお願い致します)

会議などにご利用頂けるポットでのコーヒーもご用意できます！



## カフェ来★ぶら〜り通信

文責：嶋野奈津美

これは、私の息子とその仲間たちによる2年間にわたるチャレンジの物語。

過去5回、甲子園出場の歴史を持つ伝統ある野球部に入部した彼。1年生当時の練習は厳しく、帰宅が夜の9時半〜10時となることも日常茶飯事だった。

(※現在は、指導方法が異なっている)

その高校には「練習後、制服に着替えて帰宅すること。部活のユニフォームで帰宅してはならない」というルールがあった。

汗や土埃で身体が汚れていても、一刻も早く帰って身体を休めたくても、ただ帰宅するだけのために制服に着替えなくてはいけない。

彼は、そこまでして、なぜ制服に着替えなくてはならないのか、その必要性がどうしても見出せなかった。

彼が疑問を膨らませていた頃、過去、同じように考えた吹奏楽部の先輩が、学校の意見箱を使って「部活ジャージのまま帰宅したい」というアクションを起こしていたことを彼は知った。

残念ながらそのアクションは「ルールだから」という理由によって失敗に終わり「一度訴えてみたけど駄目だった」という生徒の挑戦心を奪う残酷な事実だけを残し、忘れ去られていたのだった。

「え〜、そんなのおかしいよ。ちょっと先生に話してみたら？」一連の流れを聞いた母は、いつものように呑気な調子でこう言った。

これまでの彼なら「そんなの無理だよ」「言ったら変わらぬよ」という反応で母をがっかりさせていたのだったが、珍しく「そうだよ」と返してきた。

高校生になってから何やら変化した息子に、母は密かに期待をした。ただ、先生に言ってもおそらくは「ルールだから駄目だ」と一掃される

だろうということは黙っていることにした。

ところが数日後。彼は「先生が『それは君たちがやることだ』って。無理だって止(と)められなかった」と弾んだ声で話してくれた。

「いいね！やっpegらん」と応援されたわけではない。ただ「それは難しい」と言われなかったというだけで、彼はとても驚き喜んでいた。

「意見箱に入れるか、いや、それだと前に駄目だったんだから、署名とかの方がいいかな？…となると、先輩にも助けてもらわないと無理だな、明日○先輩に話してみようかな」

彼の初チャレンジが動き出した瞬間だった。

「どうせ無理だよ。学校はそんなもんだよ」と諦めてばかりだった君に、周りの世界は変えていけるということを知ってほしい。

たとえ変えられなくても、考えたり意見を伝えたりすることを諦めながら生きて欲しくない。母はそう願い、彼の力でやり遂げられるよう、精一杯応援しようと心に決めた。2023年5月のことだった。

その後、署名用紙作成の協力者が現れて喜んでいたらと思えば「なかなか厳しいかもしれないぞ」「前にも議題に上がったけど駄目だったんだ」と方々から先生の声が届いたり、部活に忙殺され、それどころじゃなくなったりした。

生徒指導部の先生からも「学校の決まりだから」「汗をかいているのは君たちだけかも。個人的な理由でルールは変えられない」「女子が短パンで帰ると足が出て防犯上危ない」などの説明を直接受ける。そして、ついに署名活動にも禁止がかかってしまう。

「もはやここまでか…」とさすがに母も諦めかけた。けども、彼ら(彼はもう一人ではなかった)はここから本当に本当によく頑張った。

幾度も訪れた試練を乗り越え、ついに、ついにこの春、彼らの悲願が認められたのだ。

母は、裁判後の光景のように「勝訴」の紙を高々と掲げ、十勝中の人に見てもらいたいほどひとり感動に震えていた。いっぽう、彼の気持ちはまだ聞けていないが、もはや聞く必要もないと母は思っている。